

## **2. 1. 渉外（外部）**

### **I. 渉外の仕事**

渉外係の仕事は、名古屋市の AET を管轄する名古屋市教育委員会との実習生側連絡窓口となることである。おもな業務としては、実習に参加してくれる AET の募集、アンケート、インタビューなどの実施方法や日程の調整、参加者個人への各種のメール連絡などが挙げられる。

### **II. 名古屋市教育委員会**

名古屋市教育委員会の AET に関わる業務は、2 か所で行われている。1 か所は、市役所東庁舎 6F にある名古屋市教育委員会（学校教育部指導室）であり、もう 1 か所は、栄にある「教育館」の外国人講師室である。「教育館」は、名古屋市教育委員会の AET 業務の拠点ともいえる場所で、教育委員会の AET 担当者が駐在しており、2 週間ごとに JET のミーティングが行われるなど、AET が頻繁に出入りする場所である。

実習生と教育委員会側との連絡は、市役所へ 1 度だけ伺い実習への協力をお願いした後はおもに教育館の AET 担当者（今回は片山氏等）と行った。

AET 担当者の方々は、JET（JET プログラムで来日する AET）への連絡をしてくださっただけでなく、民間派遣会社の AET との連絡の仲介も行ってくださった。

### **III. 本年度の対象学習者**

名古屋市の AET には、JET プログラムによるものと企業派遣（民間派遣会社「アルティアセントラル」、「マクシード」）によるものがある。

名古屋市教育委員会は、例年、新規の JET に対し、本日本語研修コースへの参加を義務として下さる。

本年度は、新規 JET 以外（新規ではない JET、企業派遣）にも、参加を募った結果、新規 JET、3 年目の JET、及びアルティアセントラルからの参加を得た。

### **IV. 経緯**

以下に、本年度の渉外活動の経緯を記す。

5 月 16 日 市役所訪問（稲田、太田）

名古屋市教育委員会 学校教育部 指導室 指導主事の鬼頭氏に挨拶。

コースの概要を記した紙を持参。名古屋市側から、コースの日程を決めて欲しい、それによって市の行事も調整して下さるとのこと。

- 5月27日 教育館の片山氏に電話（稲田）  
コースの内容、開始日を伝える。  
（新規JETと直接メールをやり取りしてもいいとのことなので）新規JETのメールアドレスを依頼。
- 6月1日 教育館の片山氏に電話（稲田）  
去年受講したAETに1年後アンケートをしたいと告げる。
- 6月13日 教育館訪問（稲田、太田）  
名古屋市教育委員会 国際理解教育指導員 片山氏に挨拶。  
コースの概要を説明。  
（片山氏が1年後アンケートを実施して下さるとのことなので）片山氏に1年後アンケートを渡す。
- 6月16日 教育館訪問（稲田）  
片山氏から1年後アンケートを受け取る。
- 6月18日 新規JETにメール送信（稲田）  
新規JETにWEB上のアンケートに答えてもらうようにメールを送る。
- 6月30日 教育館から電話（稲田）  
アルティアセントラルAETの参加希望者8名の名簿をもらう。  
アルティアセントラルAETのインタビュー場所・時間の決定（7月11日、青年会館）。  
新規JETのインタビュー場所・時間について案が出る（8月5日、教育館）。
- 7月17日 新規JET、アルティアセントラルAETにメール送信（太田）  
新規JET、アルティアセントラルAETに遠足（常滑）の案内と出欠確認のメールを送る。  
（アンケートが未回答の新規JETに対しては、アンケートへの回答も依頼。）
- 8月1日 教育館に「コース概要」「承諾書」を郵送（稲田）  
教育館に「コース概要」と「承諾書」を新規JETの人数分、郵送する。
- 8月5日 アルティアセントラルAETにメール送信（稲田）  
アルティアセントラルAETに「コース概要」と「承諾書」をメールで送る。

9月7日 市役所の鬼頭氏にメール（太田）

コースの終了を報告する。

9月9日 教育館訪問（稲田、太田）

コースの終了を報告する。

JETの出席表、並びにコースの概要・渉外の経過などを渡す。

（アルティアセントラル AET の出席表も望まれたので、後日、片山氏にメール（稲田））

10月26日 教育館訪問（稲田、太田）

学習者（JET、アルティアセントラル AET）の常滑焼きの作品を鬼頭氏に渡す。

（Bクラスから依頼されたフェアウェル・パーティーの写真も渡す。）

## V. 終りに

本年度の渉外の活動を通じて、次の2点を特に挙げておきたい。

まず、1つは、教育館の片山氏が大変協力的であったことである。例えば、私達が、JETミーティングの際に伺って、昨年受講したAETへの1年後アンケートを実施しようと考えていたところ、片山氏が1年後アンケートを一手に引き受け、迅速に実施して下さった。今回の実習については、少なからぬご迷惑をお掛けしたことと思うが、いつもてきぱきと親身になった対応をして下さった。心より、感謝申し上げたい。

次に、（これは、本年度の実習の特徴でもあると思うのだが）インターネットの有効的な活用である。

私達は、WEB上に、アンケート（実質的なニーズ調査）を設定したのであるが、学習者のアンケートへの入りやすさ、書き込みやすさなど、かなり工夫したものであった。ニーズ調査という面から見れば、その後に行ったインタビューと合わせて、多くの問題点があると思うが、事前アンケートとしては、回収率から見ても、大いに成功であったと考える。

また、アンケートの依頼、遠足（常滑）の案内などの作成に当たっては、ネイティブのアドバイスを受け、程度の高い依頼・案内文を送ることができた。それ故に、返信されて来た回答のメールは、どれもフレンドリーなものであった。

これらを通じて、まだ母国にいる学習者（新規JET）と、コースの開始以前に多少とも、コミュニケーションがとれたことは、学習者によっても教師（実習生）にとっても情意的に良いことではなかったかと思う。

<稲田・太田>